

## ニホンウナギ仔魚の魚病原菌Aureispira sp. 防除法の検討

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2022-09-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 里見, 正隆, 梶浦, 義浩, 荒川, 友子 メールアドレス: 所属: 水産研究・教育機構
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/86">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/86</a>

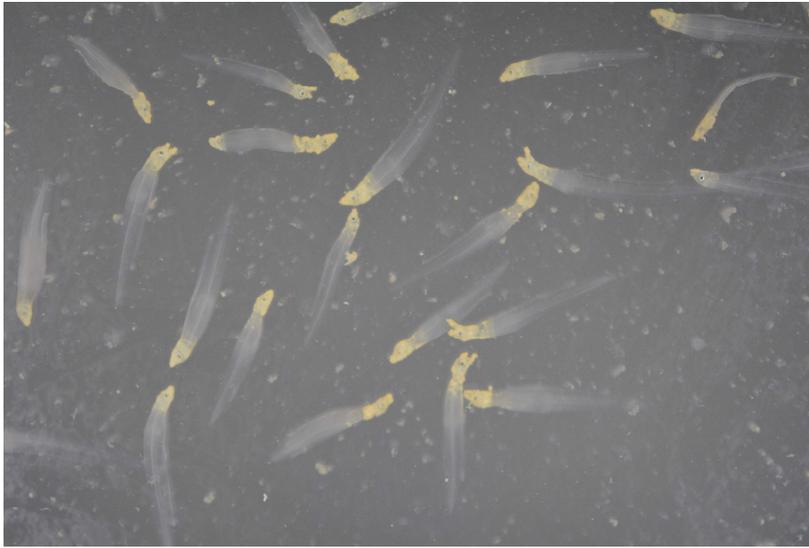


図1. 感染症により死亡したウナギ仔魚（左）、頭部は黄色から茶色に変色している。死亡個体表面の顕微鏡像（右）、仔魚表面に糸状の細菌が増殖している。

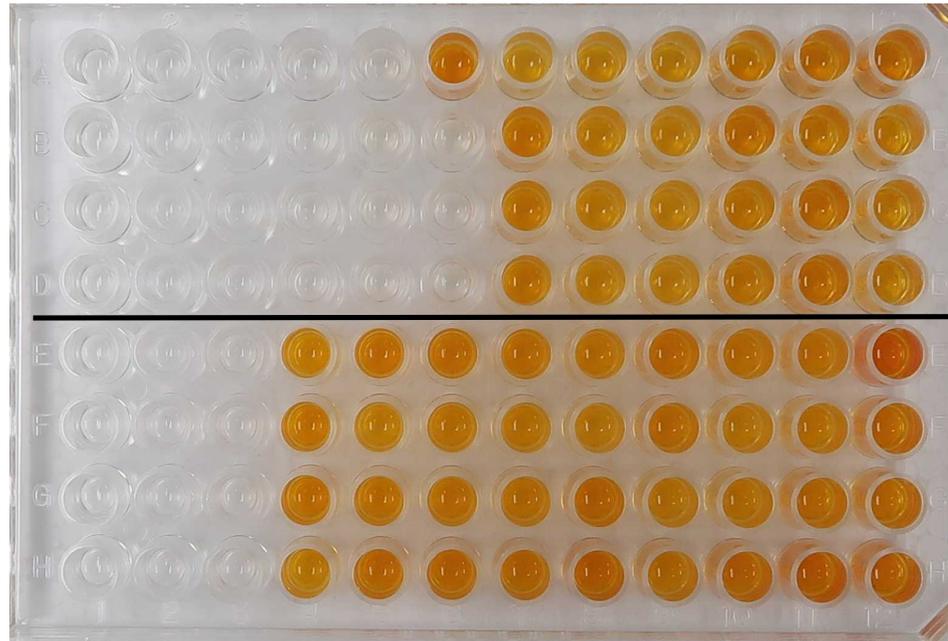


図2. 仔魚培地中の仔魚組織に付着して増殖する分離菌株菌、微小な固形物を核として菌塊を形成。

培養液中の銀イオン濃度 (ppb)

4000 2000 1000 500 250 125 62.5 31.3 15.6 7.8 3.9 2.0

*Aureispira* sp.  
(分離株)



*Vibrio* sp.  
(研究室保存株)

図3. 培地中に銀イオンを添加した時の分離菌に増殖  
オレンジ色のウェルは増殖をしたことを示す。ビブリオ  
に比べ銀イオンに対する感受性が高いことがわかる

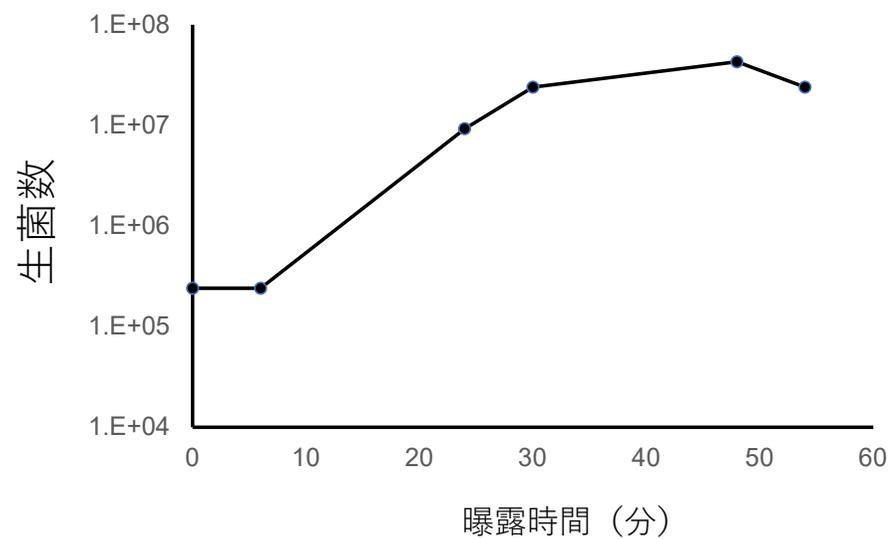


図4 分離菌株の仔魚培地中での増殖. 仔魚培地に1/100量の前培養液を接種し、経時的に生菌数をMPN法にて測定した。増殖の確認は顕微鏡観察にて行った。

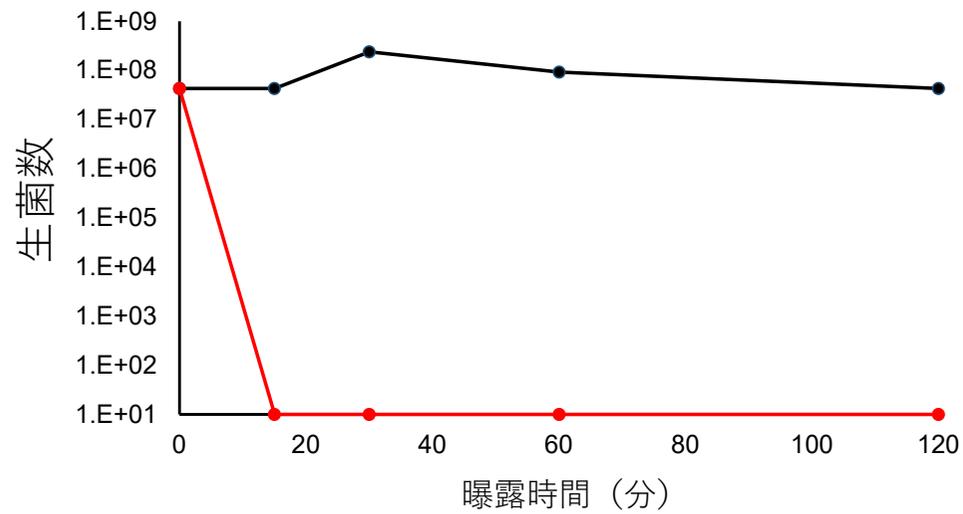


図5 分離株を500ppb銀イオン含有海水に曝露した時の生菌数の変化. 生菌数はMPN法にて、増殖の確認は顕微鏡観察およびPCR法で行った。黒線：銀イオン曝露なし、赤線：銀イオン曝露